職員の気づきが広がる制度教育

―情報の重みと地域の支えを再確認

みみはらグループでは民医連方針を学ぶ場として、全職員を対象に「制度教育」を受講する機会を設けています。今年度は「個人情報の適切な取り扱い」と「共同組織（友の会）を知る」をテーマに、2025年10月から2026年3月にかけて実施します。会場は同仁会本部に加え、昨年オープンした「地域コミュニティ棟みみっぱ」や、リニューアルオープンした「鳳クリニック」など、新たな施設も活用しています。

研修内容は、①法人顧問弁護士の辰巳先生による医療・介護現場における個人情報の適切な取り扱いについての講義、②組織部・篠原部長による共同組織（友の会）の意義と現状についての講義、③みみはら健康友の会・江戸会長による友の会活動についての紹介、④1・2年目職員による新入職員研修の一環として実施した「友の家訪問」についての報告を行いました。

さらに講義内容を踏まえて、⑤友の会を維持・発展させるために必要な取り組みや支援、環境づくりについて、職員の立場から考え提案するグループワークも行いました。各グループで「自分には何ができるのか」を話し合い、模造紙にまとめて発表しました。「LINEなどのSNSの活用」や「子ども向け企画の増加」など、研修中に出されたアイデアは友の会事務局と共有し、今後の運営に活用します。

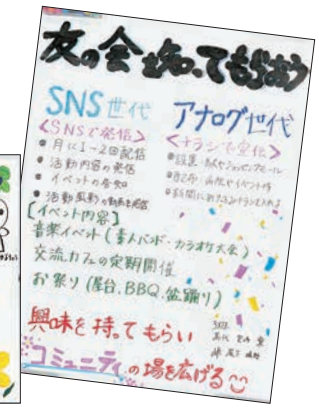
学習を終えた職員からは、「普段当たり前に見聞きしている情報が非常に重要な個人情報であることを再認識できました」「セラチア菌院内感染事故や前倒産からの再建の話を聞くたびに、友の会に支えられていると感じます。多くの活動が地域と耳原を繋いでくれており、お互いに助け合えているのだと思いました」などの感想が寄せられています。

共同組織の歴史や耳原の歩みを通して繰り返し学ぶことで、理念を未来へ繋いでいくみみはらグループを目指します。

（採用育成部）

1・2年目職員発表の様子

グループワークの様子



お知らせ

4月号から紙面リニューアル

『同仁会報みみはら』は、創刊以来続いたスタイルを見直し、より読みやすい紙面へと生まれ変わります。

これからも、みなさまにとって身近でわかりやすい情報をお届けできるよう努めてまいります。

新しくなる『同仁会報みみはら』を、どうぞお楽しみに！

釜ヶ崎のまち スタディツアー

現場から学ぶ“支援の原点”

日常業務から飛び出して学びにいく

2025年12月11日、事務世代会企画として大阪市西成区にて「釜ヶ崎のまちスタディツアー」を行い、入職1～2年目までの事務職員を含む合計17人が参加をしました。

当企画はNPO団体「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」にご協力いただき、医療機関・介護施設等にアクセスしきれない人たちに対し、私たちはどのようにアプローチできるのかを学ぶことを目的として開催しました。参加者は事前に「無料低額診療事業」「社会保障制度」についても学習を深めて当日を迎えました。

当日は同団体の奥村晴彦さん、ありむら潜（せん）さんに街の変遷や生活者の営み、抱える情勢や社会課題について講義をしてもらいました。また、お二人には労働者の生活や職業安定をはかる西成労働福祉センターやサポーティブハウス、あいりんシェルター（臨時夜間緊急避難所）などの施設や釜ヶ崎の街並みを案内してもらい、とても深い学びになりました。

現地でしか学べないことばかり

参加者は「（同地域は）孤立した地域という印象でしたが、社会から孤立した人を暖かく迎え入れ、再び社会に戻れるように支えている地域だと知った」「法律だけでは守れない部分がある事に気づいた」「支援者の並々ならぬ努力と街を愛する気持ちを感じた」などと沢山の感想があり、それぞれが「実際に行かないと学べない経験だった」と口にしていました。

今回の学びが、それぞれの日々の業務の一歩外側まで想像できるきかっけになったのではないかと思います。

（事務委員会）